



# 青陵高校の授業研究 ～学習指導研究室を中心に～

岡山県立倉敷青陵高等学校  
指導教諭 三村美紀

1



## 教職大学院 学びの意義

- 理論と実践の往還
- 学校課題解決への取組
- 教授陣とのつながり

2

## 学校経営目標の重点

- 高質な学力の養成
- 夢の実現を追求する進路指導

～授業力向上のために～  
ICT環境の整備  
授業参観の活性化

3

## 学習指導研究室の歩み

- H24年度  
全教科主任で組織する特設係会
- H25年度  
5教科ミドルリーダーで組織
- H26年度  
校務分掌の一つに位置づけ

4

## 生徒像の共有 青陵版SWOT分析

- 学習面の強みと弱み



5

## 教科を越えて求めるもの

- 生徒の実態  
真面目だが受け身
- 目指す生徒像

“学びの主体”に



関心 意欲 好奇心 探究心

6

## 研究テーマ決定

- 「知的探究心を引き出す  
授業づくり」

基礎基本の徹底  
応用力・活用力の育成

教えること と 考えさせること

7

## 授業改善の取組

- 生徒の疑問から出発する授業
- 課題解決型学習

学習形態 協同学習、討議  
教材教具 事前チェックシート  
シンクシート  
振り返りシート

8

## 公開授業 漢文「史記」劉邦



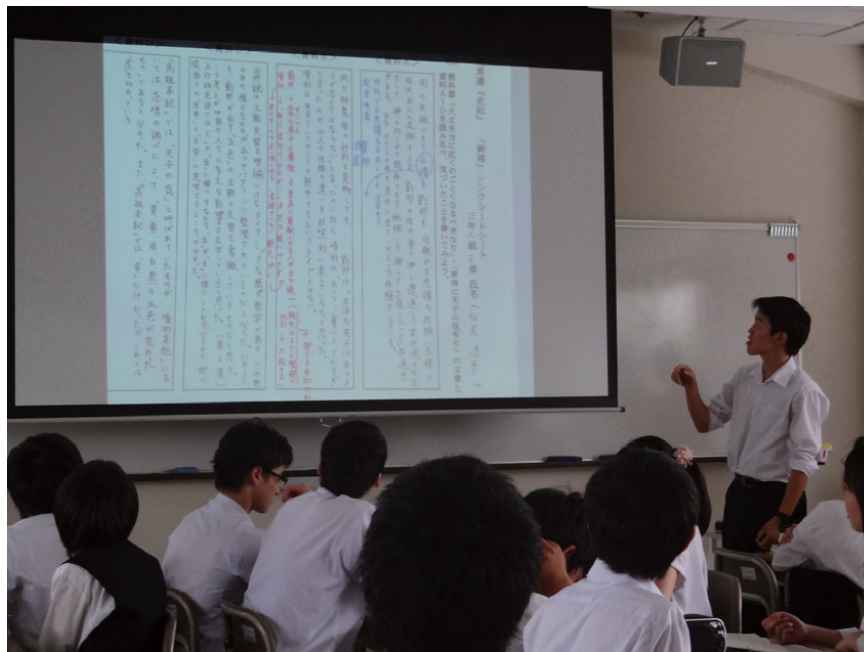
9

## 資料を読み解く



10

## シンクシートを使って発表



11

## ICT活用 iPadで実験を記録



12

## 教員研修 授業のビデオを見る



13

## 協同学習を体験する



14

## 指導教諭として

- 自らの授業を変える
- 授業改善の発信、提案
- 教員研修の企画、運営

15

## 進路指導課長として

- キャリア教育
- シティズンシップ教育
- グローバルリーダーの育成

## 21世紀型学力

自己実現と社会貢献

16



#### ④ 石本康一郎先生（岡山県教育委員会義務教育課 参事）

石本先生は、行政の立場から、「学力向上」に向けた施策について語られた。基本的には、岡山県の教育課題を浮き彫りにしつつ、課題解決のための対策であった。「おかやまっ子の確かな学びをつくる岡山型学習指導のスタンダード ～3つの視点と7つのポイント」をもとにした報告である。

まずは、岡山県児童生徒の学力に関する現状として、小学校においては、全国平均との差が昨年度と比較して縮小していること、特に、重点的に取り組んだ算数の基礎的・基本的な設問において改善されたことが報告された。

一方で、中学校においては、全国平均との差が昨年度と比較して拡大したことが報告された。

現状を分析した上で、全国学力・学習状況調査結果から見える課題として、思考力・表現力を必要とする設問に依然課題があるとともに、無解答率については、多くの設問において全国平均を上回っていること、中学校においては、家庭での学習時間が短いこと、平日、長時間スマホ等のゲームをする児童生徒の割合が多いことも指摘された。

こういう現状と課題に基づき、授業改善の取組として、「岡山型学習指導のスタンダード」の活用を提案された。この「岡山型学習指導のスタンダード」を活用し、校内研修等で取り扱い、全教職員で共通理解を図ることと、一単位時間の授業5（ファイブ）の徹底を図ることが重要であることが示唆された。授業5とは、めあての提示、考える時間の確保、達成度の確認、まとめの実施、振り返りの実施という授業づくりの視点を提供することである。また、指導の基礎・基本の徹底を図るために、意図的な机間指導、板書の構造化、ノート指導の徹底を図ることが求められていることも示唆された。

同時に、校内における組織的な授業研究が必要であることも言及された。個々の学校が課題を踏まえて、「これだけは」と課題を限定して、全員で研究に取り組むこと、指導方法の共通化を図る一つの拠り所として「岡山型学習指導のスタンダード」を活用することの重要性が語られた。

おかやまっ子の確かな学びをつくる

# 岡山型 学習指導のスタンダード

～3つの視点と7つのポイント～

- I 岡山型学習指導のスタンダードについて
- II 3つの視点と7つのポイント
- III 一単位時間の授業5(ファイブ)
- IV 指導の基礎・基本
  - 1 意図的な机間指導
  - 2 板書の構造化
  - 3 ノート指導の徹底
- V 授業を支える学習基盤
  - 1 学習基盤を確立するための規律
  - 2 学び合う学習集団づくり
  - 3 授業外での学習の充実
- VI チェックシート

岡山県教育委員会

平成26年6月

